

# 令和7年度第2回流山市成年後見地域連携ネットワーク会議議事録

記録：成年後見推進センター

1. 日時 令和7年10月15日水曜日 13時30分から15時00分まで
2. 場所 流山市ケアセンター4階第1・2研修室
3. 出席者

## (1) 委員 (9名中8名出席)

千葉県弁護士会 長浜有平 委員 (会長)、千葉県社会福祉士会 古澤肇 委員 (副会長)、  
千葉司法書士会 小出亮 委員、千葉県行政書士会 関谷一和 委員、  
東葛市民後見人の会 越智邦子 委員、流山高齢者安心ネット 上平慶一 委員、  
流山市地域自立支援協議会 澤田安識 委員、流山市地域包括支援センター 高成田弘子 委員

## (2) 事務局

流山市健康福祉部 伊原部長  
高齢者支援課 武林課長補佐、杉岡係長、有井、小畑  
障害者支援課 坂本課長、猪股 社会福祉課 田中係長  
流山市社会福祉協議会 早川事務局長 福祉総務課福祉係 早川係長、渡邊  
流山市成年後見推進センター 桃井、藤木、北島

## 4. 内容

### (1) 開会・流山市健康福祉部長挨拶

- ・ 前回委員の同意を得て実施した「流山市における受任者調整を見越した専門職の事前関与スキーム」の試行について、現時点での経過報告と評価を踏まえて協議を依頼する旨が伝えられた。スキームの目標は、グレーゾーンの疑義を払拭し一次相談窓口が業務を遂行すること、現在無報酬の中でご尽力いただいている専門職を手当てすること、持続可能性を担保して本人の権利擁護に繋げること。目標の実現に向け、現段階のスキームについても柔軟に修正を加えていく意向が示された。

### (2) 流山市における受任者調整を見越した専門職の事前関与スキームについて

(スキームA案・B案試行についての経過報告及び評価) ※資料1・2参照

- ・ スキームA案のメリットは、課題の切り分けや優先順位、支援方針やゴールの早期明確化が可能な点にある。課題としては、助言によりゴールが示されても、そのプロセスで行き詰まることや、想定外の状況変化により支援が膠着する可能性がある。既存チーム内で具体的な役割分担が必要で、高度な助言を活かしきれない場合がある。
- ・ スキームB案のメリットは、複数の専門職により多角的な支援が可能な点にある。課題としては、日程調整に時間を要し、迅速性を損なうリスクがある。ケースの状況が刻一刻と変化する場合、現場の支援行動とアドバイザーの内容が乖離する可能性がある。
- ・ 両案の使い分けに関し、試行では情報が十分に揃っている場合にA案、情報が不十分な場合にB案を選択する傾向があった。しかし、A案は支援の方向性が定まらない状況での課題整理、B案は成年後見制度の利用が望ましいと判断されるケースで、チーム構築を急ぐ場合に有効であることが考察された。
- ・ スキーム試行の段階では面談という形に拘ったが、複数の専門職を同時に集めるための調

整が困難だった。電話や ZOOM の積極的な活用により調整負荷を減らす方針、柔軟な手段選択が求められる。

- 一次相談窓口からの声としては、「アドバイザー」は面談による意思疎通のしやすさがあり、迅速な相談に繋がるという利点が挙げられた。「事前関与」は専門的視点が必要な自宅売却・相続・訴訟等のケースで整理が進み、現場同行で相談をワンストップ化できること、以前市長申立て検討時の本人の判断能力の変動に対して意見を得られたなどの利点が挙げられ、A 案 B 案それぞれに良い面があったことが確認された。
- 障害分野では成年後見制度を利用するケース自体が少なく、事前関与スキームの活用機会は限定的だが、制度利用を必ずしも前提としない形で専門職の助言を得られる機会は有益との認識が示された。ただし、高齢分野と違って多機関によるチーム一体運用についてはイメージしづらいとの意見があった。
- A-①は統合失調症で入院中のケース。自宅の環境は劣悪で、資産管理能力は客観的に困難だが、病識の欠如により支援を拒絶。能力認識の修正が難しい。アドバイザーで助言を受けた後、本人の意思が変わらず支援が停滞。入院中であるため、病院の相談員が主に関わっており、地域包括支援センターは他の緊急案件との優先度の兼ね合いに悩み、支援の狭間に落ちてしまった。助言後の進捗管理や役割分担が不明瞭であったことが反省点として挙げられ、支援チームの構築へ繋がられなかったことが課題。スキームを利用しても支援機関が不明瞭だと途中停止し、時間を費やすだけになりうるリスクが指摘された。
- 支援体制を整える段階における情報収集や会議の招集、進行、進捗管理といったコーディネート機能は中核機関が担うべきと考えられるが、人員（マンパワー）の問題もありサポート体制が必要。現在は中核機関が必ず会議に同席し、司会、総括を担っているが、今後の方針については再検討の余地がある。実際に支援を実行する段階での中心者については分けて考えた方が良いとの意見があり、ケースによってはその分野に適した専門職や機関、後見人や家族などへ移行していくことは十分に考えられる。
- A 案の課題として挙げられた「再度相談することの難しさ」については、状況が変わっていないため再相談の段階に至らないと考える傾向が見られた。しかし、本人が動かない場合に無理に支援に繋ぐ必要があるのかという見極めが重要であり、再アドバイザーがあることで、支援者間の合意形成や「今は見守りでいい」という安心感を得ることにも意味があるとの見解が示された。
- 早期に専門職と繋ぎ、数年単位で信頼関係を築く重要性が強調された。一時的に支援が不要になっても「スリープ状態」として繋がりを維持し、有事の際に再開できる。そういった長期的な視点に立って信頼関係を構築できる仕組みが求められる。そのような仕組みには「カナミック」「キントーン」などの情報システムを活用し、専門職が必要時に情報にアクセスできるようにすることが望ましい。一方で情報拡大にはリスクがあるため、必要十分な範囲を共有し保つべきとの意見もあった。
- スキームは成年後見制度を主眼に構成しているため、弁護士・司法書士・行政書士・社会福祉士・法人後見の関与について記載している。しかし、チーム構築もスキームの重要な過程となっており、その中で後見人が決まっていく流れが望ましい。チーム支援には他の職種（ケアマネ、医師、訪問看護師、精神保健福祉士など）が関わることが確認された。

- ・ 今後の方向性として事務局より以下の提案があり、全委員の合意が得られた。
  - ① A案・B案ともに利点と課題があることを踏まえ、双方必要なものとして運用を進める。
  - ② プレ運用としての動きも継続し、引き続き委員に協力を仰ぐ。
  - ③ 定義づけや条件などを明確にした要綱・要領等の文書化を進め、次回以降は文字で確認し確定を目指していく。

(3) 後見業務の担い手拡充について(流山市における成年後見人の需要予測) ※資料3参照

- ・ 成年後見制度の需要予測としては、全国の65歳以上の高齢者における成年後見制度利用割合から流山市の人口規模に置き換えた推計値(青折れ線)と、流山市の実利用者数から見た推計値(赤折れ線)により、年々増加傾向にあることが示された。
- ・ 供給予測としては、2025年時点で各専門職団体と東葛市民後見人の会の受任可能件数が計265名と概算された。(受任可能件数の解釈に一部誤解があり、低く概算されている)将来的に弁護士は予測困難、司法書士・社会福祉士・東葛市民後見人の会は横ばい、行政書士は若干増加となる見込み。親族後見人は全国統計によると6年間で約5%減少傾向であるため第三者後見人の需要が高まることが予想される。
- ・ 民法改正後の推計は見込めていない。終了するケースがでてくるなど、法改正で成年後見制度は大きく変わると予想される。それを見据え、成年後見制度だけでなく権利擁護支援という広い視点での対応が必要になる。
- ・ 現時点で担い手は不足しておらず、担い手拡充は緊急の話ではないとの受け止めがあった。反面、将来的には間違いなく足りなくなるということや、担い手の高齢化の問題もあり、担い手が入れ替わり繋いでいくことが求められるため、市として継続的に市民後見人の養成を実施すべきとの意見があった。また、市民後見人が活躍するためには、流山市社協が法人後見を行うことが前提になるとの話(市の予算組みも関係する)もあり、事務局は法人後見を含めた多様な担い手拡充の方法論について今後さらに議論を深めるとしている。

(4) 第2回ながれやま権利サポート会議および成年後見相談窓口連携会議について

(報告・評価) ※資料4参照

- ・ 「けんサポ」で検討されたケースの一つについて、重層的支援体制整備事業における支援会議に繋ぎ、福祉政策課が進捗管理することで明確な役割分担のもと支援が進行中。今後「けんサポ」「重層的支援会議」が連動できるケースが増えれば質が高まると報告された。
- ・ 「まどれん」では、前半の勉強会で任意後見制度を取り上げ、東葛市民後見人の会の加藤氏からご講義があった。
- ・ 「けんサポ」の運営方法への質問に対し、事務局より具体的な事例の検討はスキームの活用に移し、受任者調整を含めるなど内容の検討を進めていく予定であると回答があった。

(5) その他、連絡事項

- ・ 11月14日に開催する市民向けの成年後見制度講演会のテーマは「障害のある子の親なきあと」。高齢者対象の講演会とは異なり、初めて障害者支援をピックアップしたが、申込が殺到している。委員に改めて周知協力と参加の呼びかけがなされた。
- ・ 次回の第3回ネットワーク会議は令和8年1月27日火曜日に開催。